ておもしろくおかしきものなり、尤母親のすがたは、杖をつきて老人のふり、虎は這ふて出る、いたつてつよき身ぶりして、白眼み付るなり、

〔拳獨稽古〕取上拳の事

此拳は十拳打なれば、十けん打と定め、人數たとへば五人なれば、四人と十けんづゝうつなり、かくして銘々四十拳打となる、不殘うちをはりて點數をかゝて、てん數多きを順々に、天地人、外何番として甲乙つくなり、○中略

片拳の事

此拳は相手にはじめ出すかと聞、相手初め出すときは、此方たゞ聲計よびて、さきのゆびにこゑのあへばとる、あはざるときはかちまけなし、またその次は、此方よりゆび出す、先に而こゑばかりよびて、手出さず、こゑのゆびにあへばとるなり、かく幾度も一ツかはりにだして、四けんとりてはらひ、五けんめ一本をかちとする也、尤呼聲ごうまで也

源平拳の事

此拳は先百拳打なれば、百拳打と定め置、人數十人なれば、左右に五人づゝ、順を立置、下手と下手と合せて、けん木三本ヅゝうたせ、二本とりたる方殘り居て、向がはの段々上の強き人と合せうたす、また此方に而まければ、先の順の人出てうつ、かくして百拳となるとき、源方のてん數いくほん有、平かたの點かずいくほんあると、總數かゝて、てんの多きを側のかちとする也、又側々にて天地人外何番と、點數多きをさきにして、段々甲乙つくなり、

〔七拳圖式〕七拳圖

左にみえたる七賢の名を呼で拳をうつべし、拳の數は句の俳名を見て、おのづから考るべし、必しも圖する所の手の形にかゝはる事なかれ、勝負はつねの拳に同じ、たゞ八九十のなきのみなり、但無手を沒有といふなり、